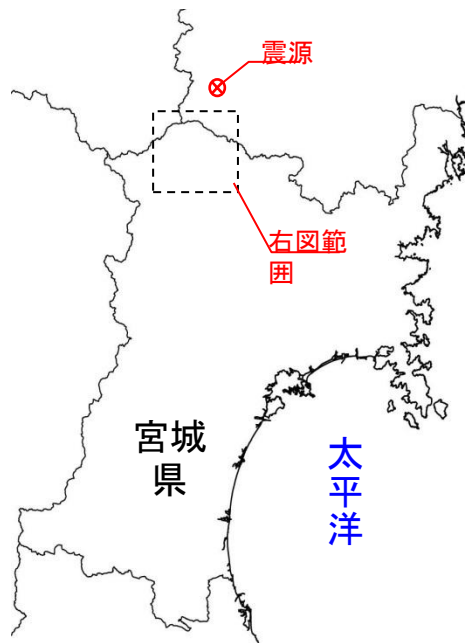


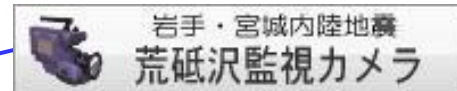
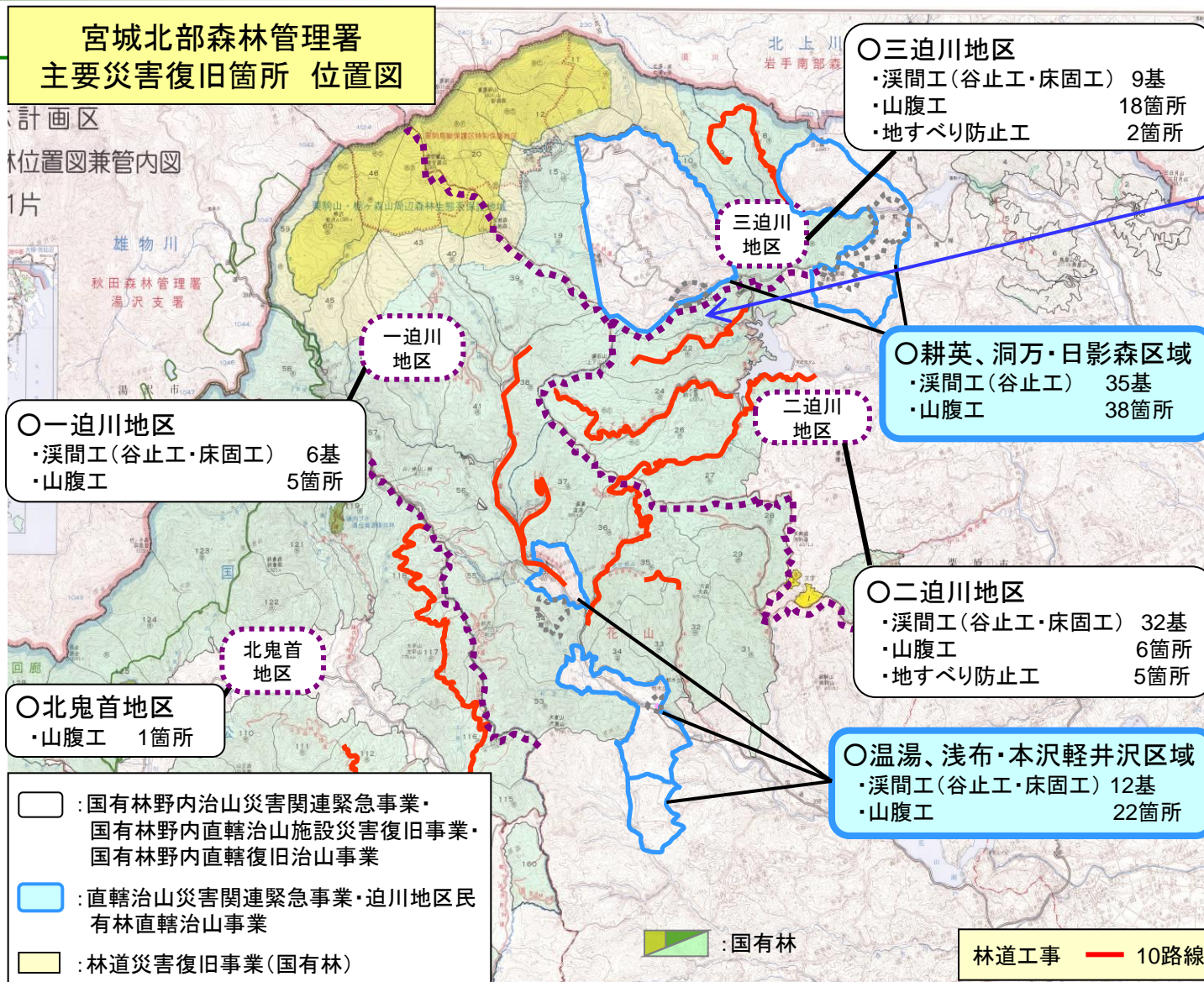
■ 概要

平成20年岩手・宮城内陸地震による被災箇所のうち、平成25年度末までに国有林治山事業で溪間工47基、山腹工29箇所、地すべり防止工7箇所、民有林直轄治山事業で溪間工47基、山腹工60箇所、林道災害復旧事業で10路線を整備しました。

平成26年度は、前年度からの継続箇所を含め、国有林治山事業で5件、民有林治山事業で9件の工事を行います。



平成20年 岩手・宮城内陸地震の記録
2008年6月14日 午前8時43分頃発生
地震の規模 M7.2
最大震度 6強(宮城県栗原市、岩手県奥州市)
震源地 岩手県内陸南部
震源の深さ 約8km
山腹崩壊箇所 1,062箇所(宮城県内、H20東北森林管理局調べ)



荒砥沢地すべりに監視カメラを設置しています。東北森林管理局ホームページのトップページ左にある「岩手・宮城内陸地震荒砥沢監視カメラ」のバナーをクリックすると見ることができます。
(<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/index.html>)



平成26年4月25日撮影

被災地の復旧状況 (溪間工・山腹工の事例)

本施工地は栗原市栗駒深山岳国有林の荒砥沢地すべり地内に位置し、直下には荒砥沢ダムや温泉、農地、民家などの重要な保全対象が存在します。地震により大規模な地すべりが発生し、大量の土砂が不安定な状態で堆積しています。崩壊の拡大防止と不安定土砂の流出を防止するため、被災時から復旧対策を進め、平成25年度には鋼製枠床固工や鋼製枠土留工などの溪間・山腹工が完成しました。

平成25年度 荒砥沢治山工事

被災地の復旧状況 (溪間工・山腹工の事例)

本施工地は栗原市栗駒沼倉西沼ヶ森地内に位置し、下流には県道築館栗駒公園線をはじめ、電力施設、栗駒ダム等の重要な保全対象が存在します。地震により三迫川支流の両岸山腹が広範囲に崩壊し、谷に大量の不安定土砂が堆積しました。崩壊の拡大と不安定土砂の流出を防止するため、被災時から復旧対策を進め、平成25年度にはコンクリート谷止工や植生基材吹付工などの溪間・山腹工が完成しました。

洞万 I 西沼ヶ森(H25)治山工事



平成26年度 工事施行箇所

復旧工事を進めます

- 1 本沢軽井沢Ⅱ (H25)
[山腹工(コンクリート土留工)ほか]
コンクリート土留工などを設置します。



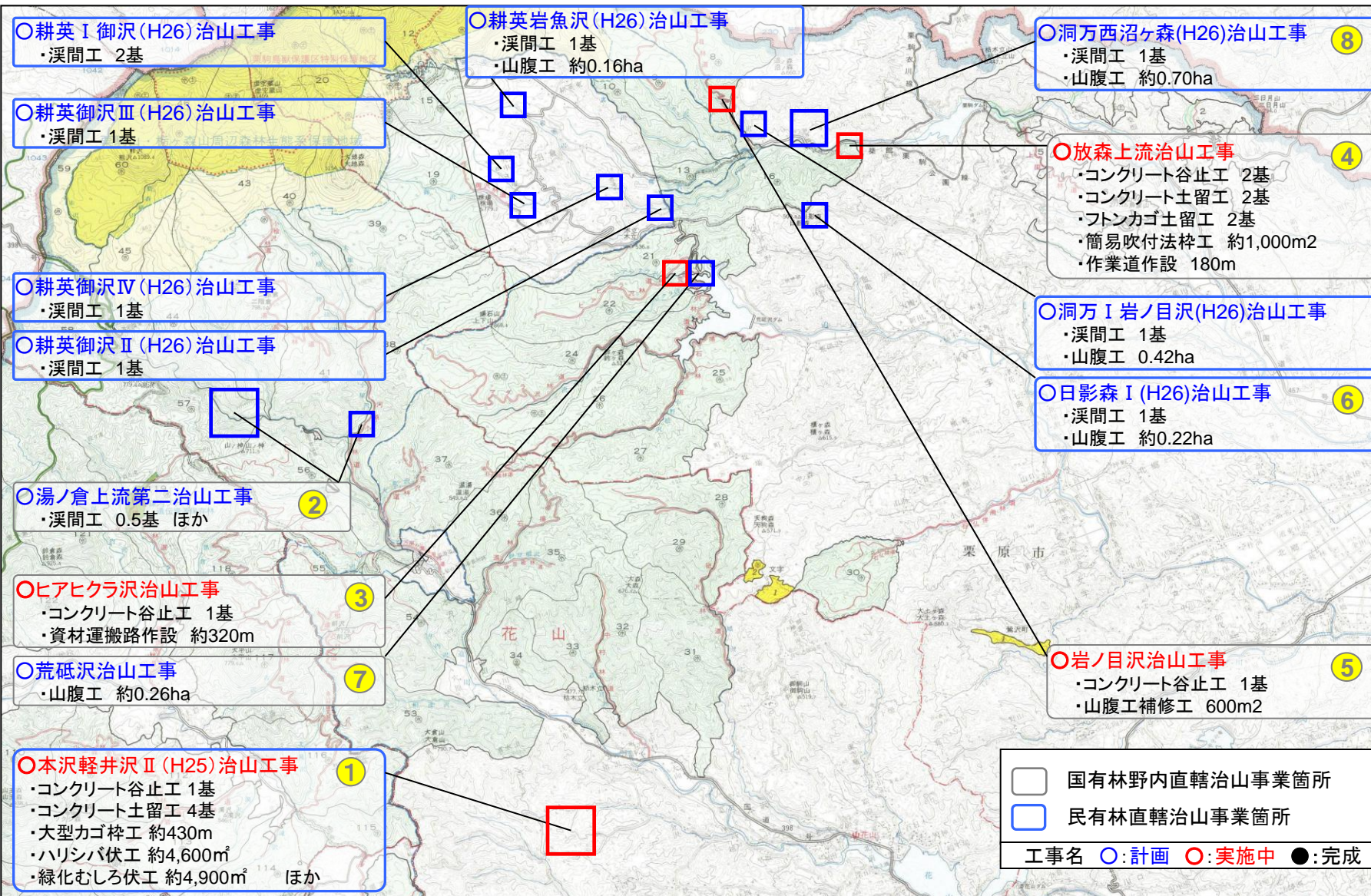
- 2 湯ノ倉上流第二
[溪間工(鋼製枠谷止工)ほか]
鋼製枠谷止工などを設置します。



- 3 ヒアヒクラ沢
[溪間工(コンクリート谷止工)ほか]
コンクリート谷止工を設置します。



- 7 荒砥沢 [山腹工(緑化マット伏工)ほか]



復旧工事を進めます

- 4 放森上流
[溪間工(コンクリート谷止工)ほか]
コンクリート谷止工などを設置します。



- 5 岩ノ目沢
[溪間工(コンクリート谷止工)ほか]
コンクリート谷止工などを設置します。



- 6 日影森Ⅰ(H26)
[溪間工(コンクリート谷止工)ほか]
コンクリート谷止工などを設置します。



- 8 洞万西沼ヶ森(H26) [山腹工(簡易吹付法枠工)ほか]



平成25年11月撮影

地すべりに伴い発生した地すべり土塊側部の崩壊斜面は、もろい地質のため、雨などによる浸食が進行し、雨裂などが発生している状況です。

このため下流の荒砥沢ダム貯水池へ土砂が流出しないよう、山腹斜面の安定化と緑化を目的として山腹工を行います。

地震とその後の豪雨により山腹が崩壊し、土砂が直下の谷に堆積しました。

さらなる崩壊の拡大と土砂の流出を防ぐため、簡易吹付法枠工等の山腹工及びコンクリート谷止工を設置します。

また、木材利用の促進に寄与するため、谷止工に使用する型枠には間伐材を使用します。

平成22年7月撮影

